

夏瀬の森

だより

平成二十八年八月二十五日 第七十二号
田殿丹生神社 宮司 嶋田博文

夏をお迎えするお祭りです



七月十日、夏祭り宵宮奉納花火大会を開催しました。田殿丹生神社の花火大会は昭和四十六年に始まり、今年で四十六回目を迎えました。毎年のことですが、この花火大会を開催するにあたっては、本当にたくさんの方に世話になっております。まずは各所への手続き。警察署、消防署、振興局、有田川漁協へと総代さんが巡ってくれます。それから警察署と警備について、露天組合とは夜の打ち合わせ。当日は総代さん全員の河原の花火打ち上げ場所と駐車場の草刈り、提灯つりを、熱中症に気を付けてしながら励んでください。その後、総代さん方は駐車場や交通規制場所での警備、敬神婦人会の方々は厄除けちまきとジュースの販売と、花火を楽しむ余裕もなく、汗を流してくださいました。今年、境内には露天の準備が整うのを待たない子ども達も明るいうちから大勢遊びに来てくれて、花火が上



がる頃には境内は人で埋まっています。小中学校のPTAの役員さん方や補導員の方々も見回ってくださいます。が、おかげさまで混乱もななく、午後九時、大きな連続花火で幕を閉じることができました。翌十一日は早朝から境内や周辺道路の清掃、提灯の片付け。そして午前九時より夏祭り神前式を執り行いました。神前式では虫の害、天候の災いが無く、収穫の秋を笑顔で迎えることが出来るようにとの祝詞を奏上します。氏神様には大勢の方が汗を流して準備した素晴らしい花火も見たいとき、楽しいひとときを私たちが過ごしたい。今年も笑顔で秋のお祭りを迎えるものと思えます。



一年間の罪や穢れを祓う
輪越し大被式

七月三十一日、輪越し大被式を執り行いました。このお祭りも総代さんが準備をしてくださいます。早朝より河原などで茅（ちがや）を刈り、一本一本綺麗に整えてから直径約三mの大きな茅の輪を作ります。大被式は午後八時から。宮司と禰宜（ねぎ）が大被詞（おおはら



いのことば）を奏上した後、参拝者一人ひとり、小さな紙片と米、麻かなる「きりぬき」で身を清めました。その後、氏子様方からお預かりをした汚れを移した人型（ひとがた）を茅の薦（こも）で包み、神職を先頭に茅の輪を8の字にくぐって川に薦を流しました。今年も百名を超える参拝者の方々は、人型が川を流れていくのを見届けると、ご自分の茅の輪を作るために、それぞれ輪から茅を引き抜いて持って帰りました。



今年も参拝者には浴衣姿のご婦人方がお茶菓子と抹茶でおもてなしをしてくれました。涼しげな和菓子とほのかに苦いお抹茶は、猛暑でくたびれた身体を癒してくれました。



早くも三面の練習が始まりました
今年の秋祭りの一番字は井口区です。十月十一日の本番に向けて、すでに八月二十五日から練習が始まりました。初日はまずは会場をお祓いし、その後、厳しい溝上師匠のもとで汗を流しました。皆さん当然ながら仕事をしながらの御奉仕ですが、大変なご苦勞をおかけしますが、どうかよろしくお願いいたします。

大切な芸能の保存に向けて
三面は現在十地区が順番で奉納してくださっています。昔は九月十八日の馬寄せの日に抽選をして一番字を決めていたのですが、昭和五十五年から現在のようになっています。しかし、年々選手や役員の選出

には大変なエネルギーが要るようになってきている中で、平成三十二年の賢区までには一番字の担当が決定（二元出、三〇年尾中、三年大谷、三年賢）しているものの三十三年以上は改めどどのような方法がよいのか皆さんのご意見をいただいたきながら考えていかねばなりません。伝統芸能をお守りする良き方法、お知恵とお力をお貸し下さい。



元気な「子ども笛太鼓」も始動
今年で四年目となる秋祭りの子ども笛太鼓ですが、九月一日より田殿小学校体育館にて練習が始まりました。今年も三年生以上の子どもたちに呼びかけたところ、七月末現在で三十九人の子どもたちが手を挙げてくれました。師匠は昨年と同じ青木茂様、勝丸利和様、岩崎利弘様の三名で楽しく丁寧に指導して下さいます。区長様、育友会の役員様にもお世話になります。どうかご期待下さい。



有田郡市神社総代大会

有田郡市の各神社の総代様方が一同に会する総代大会が八月六日に鮎茶屋にて行われました。例年、各地域が持ち回りで運営をする大会ですが、本年は吉備・金屋地区の神社総代が担当で行われました。会務報告や予算決算、その後は宮内庁内掌典に関する講演等盛りだくさんの内容で、もちろん盛大な懇親会もありました。その司会進行を見事につとめて下さったのが田殿丹生神社責任役員の大西様でした。素晴らしい司会、どうもありがとうございます。

ホームページへもお越し下さい
<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~tadononyujinjya/>